



かがやき新聞

8月号

かがやき隊員 小林駿

京都市初の地域おこし協力隊の『京都市北部山間かがやき隊』が七月一日付で左京北部山間地域(別所、花脊、広河原、久多、百井)に一名派遣されました。それが私、小林駿です。

一体どんな人がきてどんな活動をしていくのか? 紹介と報告を合わせて、かがやき新聞を発行します! 拙い文章で申し訳ありませんが、どうぞこれからよろしくお願いします。

はじめまして

『京都市北部山間かがやき隊』の小林駿(二八歳)です。この地域で知っていることは、「花背山の家」だけ(小学生の頃の授業で)でしたので、発見と勉強の毎日です。左京北部山間地域は、左京区の四十%を超える広大な地域ですが、お一人おひとりの方と交流を重ねていけたらいいなと思っています。



さて、『かがやき隊』とはなんぞや? と思っている方にご説明しますと、『かがやき隊』とは国の地域おこし協力隊制度等を活用し、その地域に住んで行事のお手伝いや、企画、特産品PR、地域の魅力発信、移住促進等の取組を実施する京都市の嘱託職員です。(役所の仕事は全くできませんが...)

というわけで、花脊大布施町に引っ越してきました。(地蔵院の下手、山側です) 花脊出張所内にかがやき隊のデスクを置いています。

パソコンや最新機器の取り扱いが得意です。今年度は光ファイバーも導入されるそうなので、インターネットを活用した買い物など、便利な使い方を提案したいですね。もしわからないことがあればお気軽にお声がけください。



活動報告

別所で世代間交流会(七月九日)

旧別所小学校の講堂で、地域の子供やボランティアの学生、地元のお年寄りやその子供世代と、幅広い年代の方たちが集まり、みんなで粽作りをしました。

知識はお年寄りが持っていますし、若者は体力があります。お互いに力を合わせ、たくさんのお粽ができました。子供達も自分で作った粽を気に入り、「もう一個食べていい？」とおいしそうにいくつも食べていました。

昔はこれが自然とできていたのですが、今ではこういう機会がないとなかなか教えてもらう事ができません。伝統や知識の継承の大事さと難しさを感じました。

午後からはボウリング大会！最初は「私はええわ〜」と遠慮していた人生の大先輩達もやり始めれば往年の技を魅せ子供よりいいスコアを出しておられました。さすがボウリング世代。僕も負けました。



大原百井の里「ハスマつり」(七月三十一日)

快晴の七月最後の日、百井でハスマつりが開催されました。

百井では新しい夏の風物詩として、休耕田を活用しハスの栽培に力を入れておられます。そこを会場に一般公開日を作っています。

前日までは、「ハスも自然の物なので、うまく咲くやろか…」と百井の会長さんも心配しておられました。当日は綺麗なピンクのハスの花を見ることができました。

朝早くから家族連れの方もたくさんきて、山菜おこわや採れたての地元野菜をたくさん買って行ってくださいました。使われていない田や土地も上手く利用できる方法がある事を学びました。

ちなみに初めて通る百井峠は、対向車来ないでくれと祈りながら走りました。



※地域でのイベントお手伝い、お困りの事などあればお気軽にご相談ください。



僕は上京出身、妻の“あい”は長野出身です。

京都市文化市民局地域自治推進室

京都市北部山間かがやき隊左京区担当

小林 駿

mail : ksqdc131@city.kyoto.lg.jp

花脊出張所 tel : 746-0215